

／夢・きらめき／ 豊中っ子が

がむしやら に走る

唐山翔自さん

サッカーを始めたのは5歳の時。母親の綾子さんが「何かスポーツをやってほしいな」と、ガンバ大阪のスクールに通わせたことがきっかけでした。当時から走るのが速かった唐山さん。俊足を生かして、ゴールを決める楽しさから徐々にサッカーにのめり込んでいきます。プロのサッカー選手になろうと決めたのは、中学3年生の頃。「ガンバでプロをめざす！」と決意し、迷いはありませんでしたが、綾子さんは「将来的にプロで活躍できる人はごくわずかですから、サッカーのために進路を決めることには大反対でした」と現実的。それでも自分の意志を曲げずに信念を貫き、通信制高校に通いながらガンバ大阪ユース（高校生年代が対象のアカデミー）に入ります。

2年生になると、ユースに所属しながらJリーグ公式戦に出場できる「2種登録選手」に選ばれ、ガンバ大阪U-23のJ3第18節・長野戦でJリーグ公式戦にデビュー。同試合で初得点し、続く第19節・八戸戦で2ゴール。第21節・福島戦では3ゴールを決めてハットトリックを達成するなど、プロの選手と同じ舞台で着実に結果を残していきます。平行して国際大会にも出場し、「AFC U-16選手権マレーシア2018」では5得点を挙げて優勝に貢献。得点王の1人として表彰もされました。

プロの選手を相手に戦うことでさまざまな学びもありました。「J3リーグで勝つには、感覚だけのプレーでは限界があると気が付きました



© GAMBA-OSAKA ※写真は令和2年2月上旬までに撮影したものです

平成14年(2002)9月21日生まれ。豊中市出身。ガンバ大阪所属のサッカー選手。令和元年(2019)からガンバ大阪U-23の選手としてJ3リーグの試合に出場し、同年9月にはJリーグの最年少ハットトリック記録を更新(16歳345日)するなどフォワードとして活躍している。今シーズンからガンバ大阪のトップチームに加入し、J1リーグの試合出場が期待される。

豊中市民の皆様へ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、Jリーグも中断中ですが、状況が良くなって再開したら、ぜひスタジアムに試合を見に来てください。試合の面白さ、ガンバ大阪のサポーターの熱さ、ゴールが決まった時のスタジアムの盛り上がりを経験していただきたいです。

唐山翔白

た。自分の次の動きを相手に読まれてブロックを組まれるといったレベルの高い駆け引きを試合で経験するうちに、考えて点を取ることを覚ええました」と、一つ一つの試合をしっかりと振り返り、さらなる高みをめざします。

今シーズンからは高校卒業を前にトップチームに加入し、念願のプロサッカー選手となった唐山さん。J1リーグでの出場はこれからですが「いつか自分もJ1リーグで活躍する!」と誓った思いが手の届くところまで近づきました。そんな今、唐山さんがめざすのは、自分が数々の名選手に憧れてきたように、これからサッカーを始める子どもやサッカーを頑張っている子どもにも憧れてもらえるような存在になること。歩み始めたばかりのプロサッカー選手としての生活を楽しみにしています。